

法然雑感

1. 始めに

*恥ずかしい宗教問答

1986年サウジアラビア中央銀行総裁訪問時

「君は仏教徒か。日本人の宗教は如何。」「無宗教です。佛教徒が多いが・・・」

「君は悪魔の子か。」(笑)

*中間報告。

—日本仏教の特徴 (参考：日本文化の一特徴は「雑種性」)

- ① 神仏混淆(妥協的・共存的)
- ② 鎮護国家(体制的)
- ③ 大乘仏教が主流(多種の)

—具体的な驚き

- ① 日本最大派の浄土教の念仏「南無阿弥陀仏」と釈迦の最後の言葉「怠るな。修行完成せよ。」：なんと大きな隔たりか。同じ仏教か。
- ② 「善人なをもて・・・」親鸞の専売特許ではなく、法然から受け売りか。

—以下、釈迦の仏教、法然・親鸞の浄土教の順で見て行きたい。

2. 釈迦の仏教

*釈迦 (有力説BC463-383。同時代に孔子、ソクラテス。出家(29)覚り(35)涅槃(80))

*小乗仏教(スリランカ、タイ等南方地域。「法句経」「旧涅槃経」等。日本は大乘仏教が流布)

—信仰より覚りの自己修行(智慧・自力)

—覚りの2側面

- ① 煩悩を断ち、涅槃へ
- ② 輪廻から解脱へ

—中心思想

- ① 諸行無常(変化)
- ② 諸法無我(縁起)
- ③ 一切皆苦(煩悩)
- ④ 涅槃寂靜(覚り・平安)

—方法論

- ① 四諦：苦、集(因は煩悩)、滅(煩悩を消し、苦を滅す)、道(八正道)。
- ② 八正道：正見、正思惟、正語、正業(行為)、正命(生活)、正精進(努力)、正念(自覚)、正定(瞑想)。

—実践

- ・出家(遊行、乞食)し、サンガ(僧集団)に入り、戒律(五戒：婬、盗、殺、妄、酒：等)厳守し法(ダルマ)会得の修行を死ぬまで継続。
- ・当然だが、釈迦の説法が基本なので、「経」は無い。

—発句経

- ・「学ぶことの少ない者は牛のように老いてゆく。肉ばかり増え、知識は増えない」
- ・「ただ年を取っただけの人は、むなしい老人といわれる」

3. 浄土教

*大乘仏教(日本の大乘は最澄・空海以降、「諸仏」「悉有仏性」が基調的)の中で、浄土教は一神教的阿弥陀が特徴。(大乘は非仏教との「加上」説あり:「如是我聞」のマジック:富永仲基(1715-1746))

— 覚りより救済の信仰(阿弥陀の慈悲・他力)

— 中心思想

・ 専修念仏: 平安の最澄・空海の総合化と対照的に、鎌倉の法然・日蓮・道元の一行選択化。

・ 時代背景

① 末法思想: 釈迦時代の覚りは不可。保元(1156)平治の乱(59)、地震、火事、飢饉等地獄の様。

② 平等救済思想: 難行(修行・寄進)から易行(念仏、題目、坐禅)へ: 救済のパラマキ化

— 方法論

・ 選択思想(法然「選択本願念仏集」: 九条兼実から執筆依頼あり)

① 浄土門>聖道門

② 正行>雑行(読誦、観察、礼拝、称名、讃嘆供養以外の決りごと)

③ 正定業=称名>助業(称名以外の上記4つ)

・ 原理(法蔵比丘が阿弥陀になったことが、48誓願成就(18番が最重要)を証明)

・ 解釈(善導・法然による「無量寿経」の読み替え)

① 「たとい我仏を得たらんに、十方の衆生、至心に信樂して、我が国に生ぜんと欲して、乃至十念せんに、もし生ぜずんば正覚を取らじ。ただ五逆と正法を誹謗するを除かん」

*法然は、「ただ五逆と正法を誹謗するを除かん」、「至心に信樂して」を削除、救済を普遍化。

*善導は、「わが名号を称すること」を追加、「十念」を「下十声」に変更。

→「たとい我成仏せんに、十方の衆生、我が国に生ぜんと欲して、わが名号を称すること、下十声に至らんに、我が願力に乗って、もし生ぜずんば正覚を取らじ」

② 阿弥陀が念仏をなぜ選択したかは「聖意測りがたし」。

法然の推測: i) 称名はあらゆる徳を包摂する

ii) 平等に可能な易行である。難行は不可。

→加藤周一は「理論体系の叙述の形式は阿弥陀の「選択」からの演繹であって、著作の根元的な動機は法然の側の「選択」である」。小生同感。

— 実践

・ ひたすら弥陀の本願を信じ、「南無阿弥陀仏」を唱える。

・ 絶対的な自己否定の後、因果関係ではなく(自力が混入ゼロで)、弥陀の救済に出会うとの信仰。

→小生のボヤキ: 結構、他力本願も難行じゃないか。

4. 法然と親鸞

— 通説

親鸞が主役・法然脇役

① 悪人正機は親鸞の独創として余りにも有名

② 妻帯肉食、非僧非俗、愚禿等「悪人」の実践

③ 息子善鸞を義絶等、妥協を許さない孤高の哲学者像。等

一 両人の生涯

- ・法然(1133-1212)：出家(15)下山(43)大原談義(54)選択集執筆(66)親鸞弟子入り(69)七箇条制誡(72)興福寺奏状(73)流刑(75)帰洛(79)入寂(80)
- ・親鸞(1173-1262)：出家(9)下山・弟子(29)選択集の書写(33)越後流刑(35)関東布教後帰洛(79)入寂(90)教行信証(50 頃開始・継続)

*ポイント：両人の重なりは5年足らず。年齢差40歳。七箇条制誡の署名190名中87番目。
親鸞の足跡は法然に比べ極めて辿りにくい

一 小生雑感

*法然が主演・親鸞が脇役であり、浄土教を二人セットで理解したい。

・理由

- ① 高弟源智の醍醐本「法然上人伝」等で悪人正機は法然の特許を示す。
- ② 法然は選択集で、弟子親鸞・先達の空也・源信に比べ念仏思想を最も明快に論述。
親鸞の教行信証は諸経の引用が9割近く、思想の構造的論述に程遠い。歎異抄の唯円の筆力は超一流。(真宗布教は蓮如の実績絶大：歎異抄禁書化も蓮如だが)
- ③ 布教活動も法然が遥かに上回る。(京都中心に、天皇から遊女まで)
- ④ 智慧第一の法然は清僧でもあり、旧仏教勢力に負けない人間力・存在感はピカイチ。
- ⑤ 親鸞は出家・妻帯・弟子入り・聖徳太子信仰等の理由・契機が曖昧。物語化容易。
加えて、血統による継承者(3代覚如や8代蓮如)に真宗開祖とする親鸞荘厳化の動機強い。
歎異抄の歴史も話題性十分：蓮如が禁書に。明治に清沢満之ほか知識人の絶賛を得る。

5. 終わりに

*今回の報告は小生の宗教研究の始まり。

*宗教は社会を動かす共同幻想のひとつ。因みに、貨幣も同じ。

*仏教の可能性

一 正>徳>善の徳(縁起：関係性)の深掘りに繋げたい。

- ① 西洋哲学と仏教哲学を踏まえた新しい思想に向かう。
- ② 空観、唯識、如来蔵、華嚴等仏教思想は広く深い。経済学と似ている。

一 科学との親和性も必須

- ① 地球学的な超長期の視野。
放射能の半減期、地球46億年(宇宙137億年)、弥勒56億7千万年等の類似性。
- ② 二元論・要素還元主義に人間存在(理性に感性・身体性等プラス)の視野も。
分析から総合の方向感で、専門化の罫から解脱。

一 個人的理想

- ① 宮沢賢治の「雨ニモ・・」の「テクノボウ」的現代人。

以上

**参考資料著者名

1. と 2. : 中村元、渡辺照宏、橋爪大三郎、佐々木閑、田上太秀、立川武蔵、末木文美士
2. と 4. : 阿満利麿、梅原猛、島田裕己、梶村昇、町田宗鳳、加藤周一、吉本隆明、
山折哲雄、大橋俊雄
5. : 塩野谷祐一先生、松井孝典

以上

雨ニモマケズ

風ニモマケズ

雪ニモ夏ノ暑サニモマケヌ

丈夫ナカラダヲモチ

慾ハナク

決シテ瞋ラズ

イツモシツカニワラツテモル

一日ニ玄米四合ト

味噌ト少シノ野菜ヲタベ

アラユルコトヲ

ジブンヲカンチャウニ入レズニ

ヨクミキキシワカリ

ソシテワスレズ

野原ノ松ノ林ノ蔭ノ

小サナ萱トウモロコシブキノ小屋ニ卒テ

東ニ病氣ノコドモアレバ

行ツテ看病シテヤリ

西ニツカレタ母アレバ

行ツテソノ稲ノ束ヲ負ヒ

南ニ死ニサウナ人アレバ

行ツテコハガラナクテモイッツイヒ

北ニケンクワヤソシヨウガアレバ

ツマラナイカラヤメロトイヒ

ヒデリノトキハナミダヲナガシ

サムサノナツハオロオロアルキ

ミンナニデクノボートヨバレ

ホメラレモセズ

クニモサレズ

サウイフモノニ

ワタシハナリタ、

瞋イライララズ怒のことを
しないで。

カンチャウニ入レズ
ニ考慮に入れるこ
とをしないで。

ケンクワ喧嘩（け
んか）。

デクノボい機転な
どのきかない人に対
して言つ悪口のてい
ば。